

吉原すみれ

パーカッションリサイタル 2016

Sumire Yoshihara

Percussion Recital 2016



【Program】(演奏順未定)



猿谷紀郎 (1960-) : 颯嗚の間 (サハヤキノハザマ) ~パーカッションデュオのための (2016) [委嘱作品初演]
Toshira Saruya (1960-) : between mental turmoil and abstract emptiness for 2 percussionists (2016) [Premiere]



共演：山口恭範



杉山洋一 (1969-) : ハクロシ (白鷺鷺) ~打楽器のための (2016) [委嘱作品初演]
Yoichi Sugiyama (1969-) : Egret for percussion (2016) [Premiere]



岸野末利加 (1971-) : ヴィオラ (堇) ~打楽器独奏のための (2016) [委嘱作品初演]
Malika Kishino (1971-) : VIOLA for percussion solo (2016) [Premiere]



福士則夫 (1945-) : 赤道のゼフィルス (2005/08)
Norio Fukushi (1945-) : Equatorial Zephyrus (2005/08)



松村禎三 (1929-2007) : ヴィブラフォーンのためにー三橋鷹女の俳句によせてー (2002)
Teizo Matsumura (1929-2007) : For Vibraphone ~after Haiku of Takajo Mitsuhashi (2002)

東京文化会館小ホール (上野駅公園口改札正面)

入場料：一般 4,000円 / 学生 2,000円 (全自由席)

2016. **11.25** **金** **19:00 開演** 18:30開場

【チケット取扱】 東京文化会館チケットサービス TEL. 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/>
チケットぴあ TEL. 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/> [Pコード: 305 - 116]

【お問い合わせ・チケット取扱】 東京コンサーツ TEL. 03-3200-9755 <http://www.tokyo-concerts.co.jp/>
(HPで予約、セブンイレブンで支払、受取が出来ます)



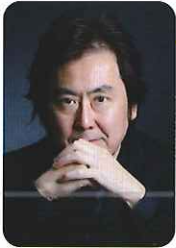
吉原 すみれ SUMIRE YOSHIHARA (パーカッション)

工藤昭二、小宅勇輔、有賀誠門、高橋美智子の各氏に師事。1972年東京藝術大学大学院在学中に、ジュネーヴ国際コンクール打楽器部門で優勝、同時にプリ・アメリカン賞受賞。以後、ヨーロッパ、日本を中心にソロ活動が続ける。1977年ミュンヘン国際コンクールで1位なしの2位。1980年サントリー音楽賞受賞。アルバム「吉原すみれ・打楽器の世界1」において芸術祭優秀賞受賞。アンサンブル・ヴァン・ドリアン団員として1983年中島健蔵賞受賞。ミュンヘン、ジュネーヴ各国際コンクールの審査員を務める。2002年中島健蔵音楽賞優秀賞を受賞。2004年朝日現代音楽賞受賞。多数のソロCDをリリースしている。アンサンブルタケミツ、メンバー。武蔵野音楽大学教授。



山口 恭範 YASUNORI YAMAGUCHI (パーカッション)

東京藝術大学を卒業後、欧米で研鑽を積み、1966年ソロリサイタルを開催し注目される。1972年より10年間、新日本フィルに在籍。また、高橋アキ、小泉浩らと演奏グループ「アーク」を結成。1983年武満徹企画の「Music Today」でソロリサイタル。同年、中島健蔵音楽賞を受賞、1993年ベルリン芸術週間で石井眞木作曲、指揮による打楽器コンチェルト「砕動鬼」を初演。2004年朝日現代音楽賞受賞。1992年ソロCD「イリュージョン」を発表。名古屋音楽大学客員教授。アンサンブルタケミツ、メンバー。



猿谷 紀郎 TOSHIRO SARUYA (作曲)

慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、ニューヨークのジュリアード音楽院作曲科に留学、同大学院を名誉奨学生として卒業(修士号)。パーシケッティ、ヘンツェ、ナッセンの各氏に師事。これまでに、クーセヴィツキ音楽財団・フェローシップ賞、ミュンヘン・ピエンナーレ・BMWミュージックシアター賞などを受賞。1992年武満徹監修サントリーホール国際作曲委嘱シリーズにおいて初演された《Fiber of the Breath(息の綾)》(ナッセン指揮/NHK交響楽団)が音楽界の大きな話題となり、一躍その名を知られることとなった。芥川作曲賞、出光音楽賞、尾高賞、佐治敬三賞など受賞。2014年には、第62回伊勢神宮式年遷宮の奉祝曲《交響詩「浄壇の祈り」》が3度目となる第62回尾高賞を受賞。他に芸術祭大賞、優秀賞など受賞多数。2009年よりNHK-FM「現代の音楽」のパーソナリティを務めた。大阪教育大学准教授。



杉山 洋一 YOICHI SUGIYAMA (作曲)

1969年生まれ。桐朋学園大学作曲科を経て、95年イタリアに留学。作曲を、三善晃、フランコ・ドナトーニ、サンドロ・ゴルリに、指揮をエミリオ・ポマリコ、岡部守弘の各氏に師事したほか、ルイス・デ・パブロ、リゲティらの作曲セミナーに参加した。ヴェネチア・ピエンナーレ、ミラノ・ムジカ、ポローニャ・アンジェリカ音楽祭等のほか、東京混声合唱団、多治見少年少女合唱団、ブルーノ・カニーノ/大井浩明デュオ、安江佐和子な瀬尾/加藤ピアノ・デュオ、東京現音計画、吉村七重、安江佐和子、などから委嘱を受け、作品は東京の夏、武生音楽祭、クラスノヤルスク・アジア太平洋地域音楽祭、トリノアンティドグマ音楽祭など各地で演奏されている。びわ湖国際フルートコンクール課題曲「カワムラナベバタムシ」作曲。イタリア、著作権協会賞を受賞。「東京現音計画#01:コンポーザーズセレクション1・杉山洋一」が、第13回佐治敬三賞を受賞。



岸野 末利加 MALIKA KISHINO (作曲)

京都市生まれ。同志社大学法学部法律学科卒業。1995年渡仏。98年、パリ・エコールノルマル作曲科、2003年 フランス国立リヨン高等音楽院作曲科卒業。2004-05年イルカム(フランス国立音響音楽研究所) 研究員。作曲を平義久、ロベール・パスカル、フィリップ・ルルーの各師に師事。2006年からドイツのケルンを拠点に作曲活動を行い、作品は全てミラノ・スピーニツェルポーニ社 から出版されている。2016年以降の活動としては、バイエルン放送局、西ドイツ放送局、アンサンブル・ホリゾンテ各委嘱の室内楽作品、フランス文化省委嘱ストラスブルグ・パーカッションのための打楽器九重奏曲、ムジーク・ファブリック委嘱ピーター・ヴィールのためのオーボエ独奏曲などの初演が予定されている。2014年にポートレートCD「イリザシオン」がヴェルゴ・レーベルから出版された。
<http://www.malika-kishino.com>



福士 則夫 NORIO FUKUSHI (作曲)

1969年東京藝術大学大学院修了の年、5人で作曲グループ「白浪」を結成。本格的な作曲活動に入る。72年文化庁芸術祭優秀賞受賞。翌年フランス政府給費留学生として渡仏し75年帰国。83年アンサンブル「ヴァン・ドリアン」として第1回中島健蔵音楽賞受賞。2003年「室内オーケストラの領域III」の企画により第3回佐治敬三賞受賞。2008年、チビテッラ・ラニエリ財団より招聘を受けレジデンスコンポーザーとして渡伊。現在、桐朋学園大学音楽学部講師、東京音楽大学客員教授、日本現代音楽協会会長、日仏現代音楽協会名誉顧問。



松村 禎三 TEIZO MATSUMURA (作曲)

1929年京都生まれ。旧制第三高等学校理科卒業。作曲を池内友次郎、伊福部昭に師事。55年毎日音楽コンクール作曲部門第1位を受賞し、その後<阿知女>、<管弦楽のための前奏曲>、<ピアノ協奏曲第1番、第2番>等を次々と作品を発表する。78年サントリー音楽賞の受賞を機会にオペラの委嘱を受け、自ら台本を手掛け、13年余をかけて作曲した<沈黙>が1993年に初演され、新しい日本のオペラの誕生と大きな話題を呼んだ。強いエネルギーを秘め、流行に左右されない独自の個性を持つ作曲家として、国際的にも高い評価を受けており、94年のニューヨークにおけるミュージック・フロム・ジャパンで松村禎三作品の特集が開催された。また、映画、演劇の音楽も数多く手がけている。チェロとピアノのための「肖像」(堤剛委嘱2006年12月13日初演)が遺作となった。サントリー音楽賞の他、尾高賞、毎日芸術賞、モービル音楽賞、京都音楽賞大賞、都民文化栄誉章等多くを受賞。1990年紫綬褒章を受章。2007年8月6日逝去。享年78